

令和 8 年度 第 2 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
開催日時	令和 8 年 8 月 31 日（月）14 時 00 分～15 時 40 分
開催場所	久留米商工会館 5 階 大ホール
委員等の 出欠状況	・ 委員（25 名） 出席 22 名（会場のみ）【うち代理 2 名】、欠席 3 名 ・ 臨時委員（6 名） 出席 5 名（会場のみ）、欠席 1 名 ・ オブザーバー委員（1 名） 出席 1 名（会場のみ）
議事概要	1 開 会 2 会長挨拶（牧野会長） 3 議 事 〔事務局より〕 (1) 委員名簿及び席図をもって委員の紹介 (2) 委員、臨時委員 31 名中 27 名の出席をもって、設置要綱第 10 条第 2 項に基づき会議成立を報告 (3) 傍聴希望がなかったことを報告 (1) <u>議案第 10 号 久留米市地域公共交通計画策定に向けた基本理念・将来像及び施策・評価指標について</u> 〔主な説明内容〕 ・ 計画策定のスケジュールについて 第 1 回会議（6/30）の内容（現状診断や課題整理等） 今回会議（8/31）の内容（基本理念・将来像・評価指標等） 今後、11 月にパブリックコメントを実施する予定。 ・ 計画の体系案について 各章の構成について、概要を説明。 ・ 課題の整理について 前回会議での意見を踏まえて、課題を再整理し、主な内容を紹介。 ・ 基本理念、基本方針、計画目標について 基本理念と 3 つの基本方針、4 つの計画目標を説明。 ・ 公共交通ネットワークの基本構造について 「基幹交通」「支線交通」「交通結節点」の役割を説明。 ・ 公共交通ネットワークの将来像について 「2 核＋8 拠点」を結ぶ公共交通ネットワークを説明。 ・ 施策の展開について 4 つの計画目標に対応した、施策の一部を紹介。

項 目	内 容
議事概要	・重点プロジェクトについて 重点プロジェクトの選定理由や実施により目指す姿や効果、具体的な事業内容の一部を紹介。 ・評価指標（K P I）について 進捗K P I と効果K P I の計 9 つの内容を説明。 ・欠席された委員からの意見を紹介 （委員）①生活支援再構築プロジェクトについて、新ルート新設の際の交通事業者との事前調整や、「住民が努力している地域を優先的に支援する」仕組みの検討が必要。 ②指標 1 について、実効性を高めるためには参加者数が重要。指標 2 について、地域内交通結節点の交通手段の乗り継ぎ時間の検証が必要。 （事務局）再構築の実施計画段階で、調整・検討を行う。また、施策の実施時に検証を行い進める。 〔議案第 10 号の主な質疑応答〕 （委員）指標 4 について、モビリティ・ハブの定義を明らかにして、現状値・目標値を設定してはどうか。 指標 8 の増加と指標 6, 7 のリンクはどうなっているのか。 （事務局）モビリティ・ハブは、地域生活型と観光地回遊型のモデルを想定し、宮ノ陣地区で実証を進めている。この 2 つのモデルを実装することで久留米市におけるモビリティ・ハブのあり方を確立する。 指標 8 の利用率向上は、指標 6・7 の利用者増加にもつながるもの。利用者数の目標はまず減少を食い止めることを最低限の目標とし、さらに上積みを目指す。 （委員）指標 6 について、JR 久留米駅の乗車人員は、令和 6 年度 7404 名、令和 7 年度 7221 名と減少している。これは、運賃改定が要因と考えている。 減少傾向の中、目標値が維持であることは適切なのか。 （事務局）鉄道利用者の減少傾向は認識している。5 つの重点プロジェクトを連携して実施することで、まずは利用者数の減少を食い止め、最低限維持することを目標とする。 （委員）指標 6 について、コロナ前まで回復したいという思いはある。目標の増加率に対しても妥当性を確認いただきたい。 （事務局）増加率は、「通勤・通学の公共交通利用者をコロナ禍前

項 目	内 容
議事概要	の水準まで」戻す数字としているが、H22 年度の国勢調査時はコロナの影響がないと判断し、算定している。 (委員) 指標 8 について、目標値の根拠を教えてください。人口増減も加味するべきではないか。 (事務局) 平成 22 年国勢調査から、15 歳以上の就業者・通学者数と鉄道・路線バス利用者数を把握し、目標値を設定している。一方、人口の変化を踏まえた指標設定については検討する。 (委員) 指標 8 について、目標値の考え方として、コロナ禍前の水準でいいのか？ 乗務員不足への対応を含めて考え方の整理が必要ではないか。 (事務局) 長期的な目線ではもっと高い目標とすべきと考えているが、まずはこの 5 年間での達成の目安として設定している。 運転士不足への対策は、通常施策として対応を考えている。 (委員) 指標 8 について、通学需要について、なぜ利用されていないのかについて要因を把握した上で施策を検討する必要がある。 (事務局) 市民アンケートでは「駅まで遠い」との回答が多いことは把握している。 生活支援交通・地域輸送資源・シェアサイクル等を組み合わせ、公共交通を選択できる環境を整えていく。 (委員) 指標 3 について、介護事業者等が保有する送迎車両も地域資源として活用できる可能性がある。 既存福祉車両の実態について把握し、活用について検討してほしい。目標の増加率に対しても妥当性を確認いただきたい。 (事務局) 指標 3 で想定している福祉バスは、行政・社会福祉協議会等が運営するものを指している。将来的には、民間が運行している輸送資源も活用を検討したい。 (委員) 指標 2 について、地域特性に応じた生活支援交通の確保を重視すべき。 近隣自治体（大刀洗町、小郡市等）や、教育・福祉等の

項 目	内 容
	庁内関係部局との横断的な連携を進め、5 年後・10 年後を見据えた取組をしてほしい。 (事務局) 利用者の年齢層や目的地は把握しており、今後ルート見直しや乗り方教室にて利用促進を図っていく。 また、第 8 章の計画推進体制の中で福祉・教育等の他部局との連携も示す予定。 (委員) 目標 3 の施策について、駅のバリアフリー化は、段差やエレベーター等の整備に加え、車いすや酸素ボンベ利用者が安心して移動できる環境が必要。 交通系 IC カードの利用方法等に不慣れな高齢者・障害者への乗り方・利用方法の支援についても要望。 (委員) ・全体的に、交通サービスに終始していて、買物や通院、余暇など移動の目的を考慮することが抜けているように感じている。こういった移動のための交通なのかをしっかりと考慮いただきたい。 ・計画策定までのスケジュールについて、パブリックコメントが 11 月に予定されているが間に合うのか懸念される。 ・地域公共交通の課題について、「利用実態と制度設計の乖離」、「地域輸送資源の運行重複」、「IC カードの利用環境の格差」が何を指摘しているのかわかりづらい。 ・基本方針①と②はどちらを先に示すべきか悩ましい。また、重複する部分もあるように感じる。 ・計画目標④について、担い手の確保は重要な政策であるため、「みんなで利用して支える」に関連して「担い手の確保」を追記してはどうか。 ・地域公共交通ネットワーク（基本構造）案のイメージ図について、全ての移動を支線交通でカバーするように見え、実際にある鉄道を利用せずにバスのみで移動しているような状況との整合が取れていないと思われる。どのような移動を想定しているのかよくわからない。 ・ネットワーク図に関して、交通結節点は乗り継ぎ可能な環境が重要。駅だけではなく、商業施設や病院などの目的地となる施設もなり得る。トイレや暑い日でも涼しく待てる環境を確保しないと乗り継ぎしにくくなる。 ・重点プロジェクト①について、移動目的を意識した利

項 目	内 容
	用促進施策とした方がいい。 ・重点プロジェクト②について、路線バスの再編が必要などところはないのか。課題に「フィーダー利用が少ない」との記載があるが、よりみちバスの利用自体が良くないといった誤解を与えるように感じた。 ・重点プロジェクト④について、モビリティ・ハブの定義を明確にした方がいいのではないかと。西鉄久留米駅のように、シェアリングサービスなど多様な交通手段が結節しているところは該当しないのかも整理した方がよいと思う。集落側の駅などでのパークアンドライドを導入し、自家用車と公共交通での移動というやり方なども含めて考えを整理してはどうか。 ・指標 2 「交通結節点アクセス率」について、乗継利用している人だけを取り扱わずに、地域内での公共交通利用を対象とした方がいいのではないかと。 ・指標 3 「地域輸送資源実証地域数」や指標 4 「モビリティ・ハブ箇所数」について、実証実験を行って、その時点で達成となってしまうのか危惧される。 ・指標 6 「鉄道の利用者数」、指標 7 「路線バスの利用者数」について、目標設定は市民と共有できるものとしてはどうか（市民 1 人が年間に何回乗ると達成するといったメッセージを発信し、ともに取り組むことが重要） ●議案第 10 号は、次回の会議にて継続協議とする。 4 報 告 (1) <u>報告第 3 号 江見線バス「寄人橋バス停」設置場所の変更について</u> 〔主な説明内容〕 ・変更内容について説明。 〔報告第 3 号主な質疑応答〕 ・なし 5 その他 〔主な説明内容〕 第 3 回会議の予告：令和 8 年 1 0 月（予定）

令和 8 年度 第 2 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
	〔事務局より〕 公共交通の回復が重要で、そのためにはまちづくりとの連携が必要と考えている。 人の移動が、現在の交通状況と異なる部分が存在している。 引き続き、現在の不便な状況を改善していくことも必要と考えている。 6 閉 会
署名	令和 8 年度第 2 回久留米市地域公共交通会議の議事は、上記に相違ありません。 令和 8 年 9 月 8 日 久留米市地域公共交通会議 会長 牧野 浩志

久留米市地域公共交通会議 委員名簿

No.	委員区分 第4条	所 属	委員名	備考	R8.8.31出欠		
					会場	Web	代理出席者
1	第1号	久留米市	副市長 牧野 浩志	会長	◎		
2	第2号	西鉄バス久留米株式会社	取締役営業本部長 下條 寛顕		◎		【随行】営業部長 宮崎 透
3	第2号	堀川バス株式会社	取締役統括部長 田中 智太郎		◎		
4	第2号	株式会社甘木観光バス	代表取締役 池野 栄次		◎		
5	第3号	九州旅客鉄道株式会社久留米駅	駅長 大原 邦秀		◎		
6	第3号	西日本鉄道株式会社鉄道事業本部計画部計画課	課長 平野 真孝		◎		
7	第4号	一般社団法人福岡県バス協会	専務理事 河津 隆幸		◎		
8	第5号	福岡県筑後地区タクシー協会	会長 中川 恵司		◎		
9	第5号	久留米市タクシー協会	会長 篠倉 博光		◎		
10	第6号	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事 山口 貴將	監事	◎		
11	第6号	久留米男女平等推進ネットワーク	会長 永松 千枝		◎		
12	第6号	N P O法人ル・バトー	理事 佐々木 久美子		◎		
13	第6号	N P O法人高齢者快適生活づくり研究会	代表理事 吉永 美佐子		◎		
14	第7号	国土交通省九州運輸局福岡運輸支局	支局長 永松 靖二		○		首席運輸企画専門官 牟田 嘉伊座
15	第8号	西鉄グループバス労働組合	福岡本部執行委員長 筈島 健嗣		◎		
16	第9号	国土交通省福岡国道事務所	計画課長 長 靖朗		○		計画課 専門官 木場田 豊
17	第9号	福岡県久留米県土整備事務所	地域整備主幹 福田 幸司		×		
18	第9号	久留米市都市建設部	部長 城戸 康介		◎		
19	第10号	久留米警察署	交通第一課長 外林 一穂		◎		
20	第10号	うきは警察署	交通課長 森 哲也		×		
21	第11号	福岡大学工学部	工学部長 教授 辰巳 浩	副会長	×		
22	第11号	大分大学経済学部門	教授 大井 尚司		◎		
23	第12号	福岡県市町村・地域振興部空港・交通政策局交通政策課	課長補佐 安成 健一郎		◎		
24	第12号	久留米商工会議所女性会	会長 西野 恵子	監事	◎		
25	第12号	久留米市身体障害者福祉協会	理事 田村 美雪		◎		
26	臨時	城島地域生活交通検討会	座長 鐘ヶ江 益三		◎		
27	臨時	城島地域生活交通検討会	副座長 境 佳芳子		◎		
28	臨時	北野地域生活交通検討会	座長 田中 文明		◎		
29	臨時	北野地域生活交通検討会	委員 脇田 量子		◎		
30	臨時	大刀洗町企画財政課	課長 福岡 信義		◎		【随行】企画監 辻 美貴善
31	臨時	みやき町事業部まちづくり課	課長 太郎浦 文和		×		
-	ワザ・バー	国土交通省九州運輸局交通政策部交通企画課	課長 小堀 まろり		◎		【随行】係長 相良 美樹